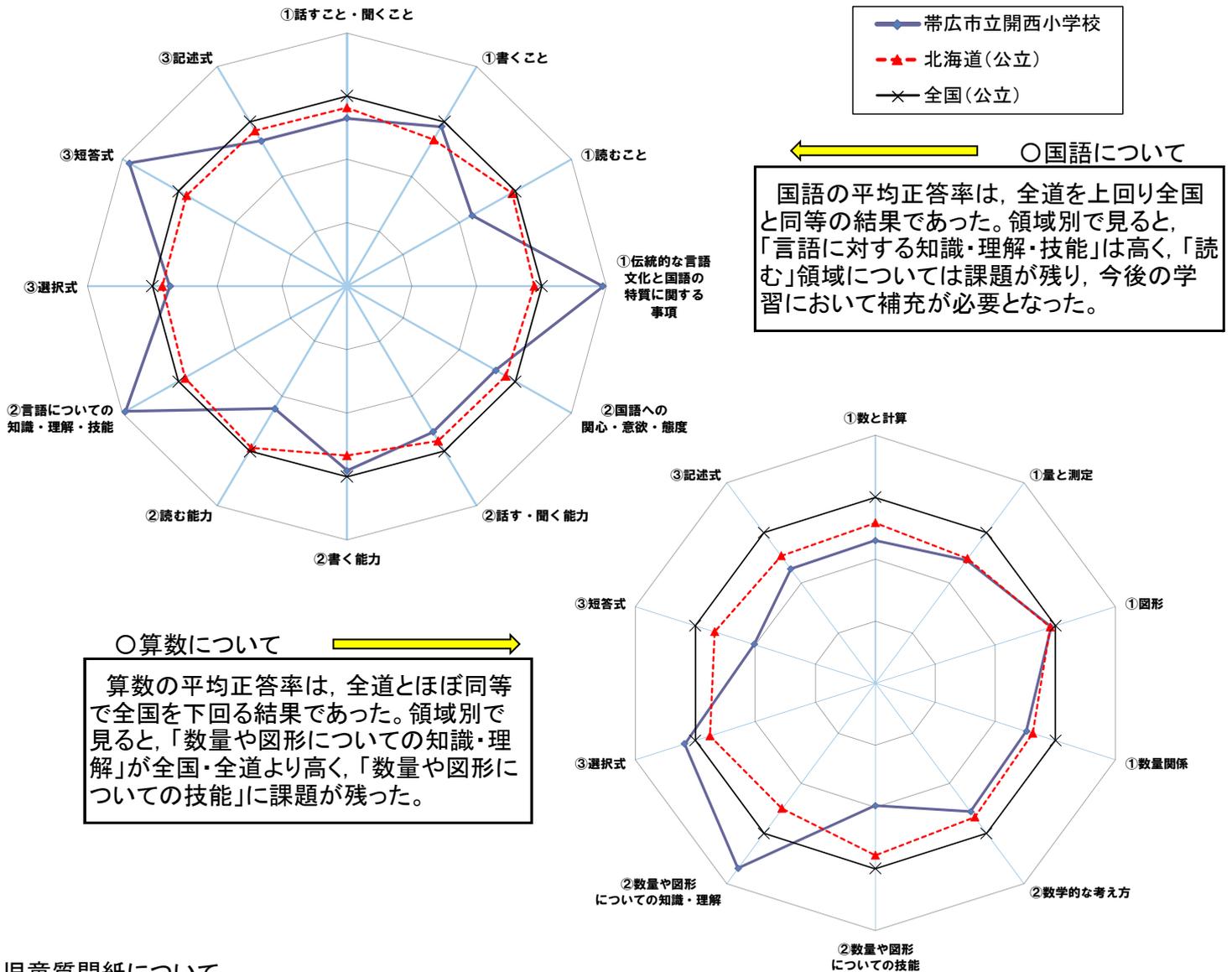


平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に実施されました「全国学力・学習状況調査」につきましては、結果が公表され、対象児童へも先日個票を渡しています。つきましては、本校の結果等の概略についてもお知らせいたします。

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。

小学校は、第6学年を対象とし、国語・算数の2教科で調査しています。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身につけるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。



○児童質問紙について

「国語の学習が好き」や「国語・算数の授業がよく分かる」「自尊心や規範意識・地域とのつながりを問う質問」などの項目で全道・全国よりも良く回答した児童の割合が高く、「ノート整理」「家庭学習の時間」「読書を好む」に関わる項目については全道・全国を下回る結果となった。

●今後の取組

- ・正答率の低かった問題及び領域については、卒業までに直しや関連問題提示を進め、力をつける。
- ・学力向上の大きな要因として考えられた「習熟度別指導・少人数学習」については、さらに充実を図る。
- ・既習事項の活用問題や論理的な思考を説明・記述する学習内容を、授業の中で意図的に取り入れるような授業改善を図る。
- ・家庭学習の習慣化及び内容の充実を家庭と連携しながらさらに進める。
- ・読書活動への啓発や日々のニュースへの関心を高めるなど、社会性を育む基礎となる指導や活動を取り入れていく。

